

寒冷地形談話会通信

1994年度 第3号 1994.09.20発行

事務局：〒113 東京都文京区本郷7丁目3-1
東京大学大学院理学系研究科地理学教室内
寒冷地形談話会事務局（担当，青木）
TEL. 03-3812-2111 (EXT. 4580)
FAX. 03-5684-0518（地理学の事務室）
e-mail. kent@geogr00.geogr.s.u-tokyo.ac.jp

・6月の例会報告Ⅱ

6月18日（土曜日），15:00から明治大学において行われました、本年度第1回例会の報告の続きです。

ー南米アンデス山系，チャカルタヤ山とアフリカ，ケニヤ山の事例よりー
水野一晴（都立大・地理・研）

熱帯高山において，植物がどの高さまで進出し，かつその上限を決定づけている立地因子は何かについて検討した。ケニヤ山では上部に氷河が分布し，氷河が後退するにつれ，植物が前進し，氷河が植生分布の上限に影響を及ぼしていた（水野，1994）*。特に，氷河の近くに生育できる先駆種は，氷河の後退速度（2.88m/yr:1958-1992）とほぼ同じ速度（2.65m/yr:1958-1984，2.13m/yr:1984-1992）で前進していた。

一方，氷河が存在しない場合については，赤道直下にあるケニヤ山では標高が十分でないため，ボリビア北部のCordillera Realのチャカルタヤ山において調査した。その結果，植生分布の上限は，珪質頁岩の斜面（4,950m）と石英斑岩の斜面（5,050m）では大きく異なり，その差は100mにのぼっていた。珪質頁岩と石英斑岩では，節理の入りが異なっており（節理密度：珪質頁岩13.3，石英斑岩3.3），礫の生産様式が異なるため，地表の礫径分布も異なっていた。熱帯高山では気温や地温の日変化が大きく，チャカルタヤ山でも通年にわたって，1日の間に0°Cを前後する。特に，地温の変動幅は大きく，その結果，通年にわたり，凍結融解作用が活発である。そのため，地表面構成物質の礫径分布の違いがフロストクリープやジェリフラクションなどの周氷河作用による地表の移動量の差をもたらし，さらに，その移動量の差が植生分布の上限の位置を大きく変えていると考えられる。

*水野一晴(1994):ケニヤ山，Tyndall氷河の後退過程と植生の遷移およびその立地条件。地学雑誌，103(1)，12-23。

・ 10月例会のお知らせ

長らくお待ちいたしました。10月の例会を以下のように行いたいと思います。

《蛇紋岩地特集》

演者：小松陽介氏（都立大・院） 「蛇紋岩地形の特徴について」
中新田育子氏（東京大・院） 「蛇紋岩地の植生・・・スライドによる紹介」

場所：東京大学理学部2号館2F 地理学講義室

時間：10月22日（土），15:00より

その後は、場所を変えて・・・

・ 夏の学校（サマースクール）の報告

本年度の夏の学校は、8月18日～20日、案内者に守屋以智夫氏（金沢大）、島津弘氏（金沢大）、奥野充氏（名古屋大・院）の各氏を迎え、実施されました。テーマに「火山噴出物に基づく噴火史の復元と高山地域の土砂移動」を設定しておりましたが、それに限らず、白山の自然を様々な角度から楽しむことができました。

また、参加者は学部1年生からベテランの研究者、地域で研究が続けられている方など、少人数ながら多彩で、様々な情報交換の場ともなりました。

来年の夏の学校では富士山を予定しております。来年も、多くの方の参加をお待ちしています。

・ 会費納入のお願い

今年度の会費納入をお願いいたします（まだまだです!!）。郵便局の振り込みでできます。郵便料金の値上げなど、支出の増加も予想されますが、幾分繰越金もありますので、今年度はとりあえず会費は値上げせず、据え置きたいと思います。

寒冷地形談話会 00100-9-171342 1,500円／年 です

また、お送りいたしました封筒の宛名書きのタックシールに記載されている数字は、会費未納入年度です（919293は91年度、92年度、93年度分が未納入ということです。なお、今年度分は記載してありません）。あわせてご納入ください。3年以上、会費未納入の場合は来年度以降の会報の発送を停止することもありますので、よろしくお願いいたします（入れ違いとなった場合はご容赦ください）。

興野氏 (後 2人目)

島津氏 (一番右)



白山サマースクール より (守屋氏 撮影)

94.08.19.